

機 関 名	農業試験場	課題コード	H260303	事業年度	H26 年度 ~ H30 年度				
課 題 名	次代の秋田の酒を担う酒造原料米品種の開発								
機関長名	熊谷 譲	担当(班)名	水稻育種担当						
連絡先	018-881-3338	担当者名	柴田 智						
政策コード	2	政策名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略						
施策コード	2	施策名	秋田米を中心とした水田フル活用の推進						
指標コード	1	施策の方向性	売れる米づくりの推進と秋田米ブランドの再構築						
種 別	重点(事項名)	水稻・畑作物の育種による秋田ブランド再構築			基盤				
	研究		開発	○	試験		調査		その他
	県単	○	国補		共同		受託		その他
評 価 対 象 課 題 の 内 容									
1 研究の概要									
1) 酒造好適米品種の開発 農試で実施する生産力検定試験、特性検定試験と同時に、原料米成分分析・小仕込み試験等による醸造適性評価(醸試)、想定される主産地及び酒造メーカーとの現場醸造試験(酒造メーカー、秋田県酒造協同組合等)を実施することで、一年目系統群系統(F4~5)から栽培特性と醸造特性を兼ね備えた酒造好適米品種の開発を行う。									
2) 酒造用多収穫米品種の開発 農試で実施する多収系統の生産力検定試験において、収量性が優れた系統を選抜し、成分分析に基づいた醸造適性評価(醸試)、現場醸造試験(酒造メーカー、秋田県酒造協同組合等)を行う。また、世代の進んだ一般粳系統から、収量性の高い系統について、同様の醸造適性評価を行い、品種開発期間の短縮化を図る。									
2 課題設定の背景(問題の所在、市場・ニーズの状況等) 「水稻直播用品種と高品質加工用米品種の開発(Ⅱ)」の組み替え新規課題である。これまで酒造好適米として「秋田酒こまち」、低コスト原料米の新品種候補として「秋田107号」を育成した。 縮小する清酒市場を背景に、各酒造メーカーは、消費量が伸びている「吟醸酒」・「純米酒」等特定名称酒の製造構成比率を高めるため、それらの生産量を拡大し、新商品の開発に取り組んでいる。また、低価格高品質なコストパフォーマンスの高い商品を開発することで、消費量の維持・拡大を図っている。そのため、県内の酒米産地及び市場動向に対応した取り組みを始めている県内酒造メーカーからは、それらの原料となりうる「酒造好適米」及び「酒造用多収穫米」の開発が求められている。									
3 課題設定時の最終到達目標									
①研究の最終到達目標									
1) 栽培特性が「秋田酒こまち」並に優れ、「山田錦」で作った吟醸酒と同タイプの酒質を生む酒造好適米品種を開発する。									
2) 収量が「あきたこまち」に比べ約20%多く、酒造適性(醸造適性・精米特性)に優れた酒造用多収穫米品種を開発する。									
②研究成果の受益対象(対象者数を含む)及び受益者への貢献度 これまでに生み出せなかった「新たな酒質の吟醸酒」及び「コストパフォーマンスの高い純米酒」に代表される秋田産ブランド清酒の誕生により、清酒市場の活性化を図ることでの貢献度は高い。また、県内における新たな酒造好適米産地の育成及び酒造用多収穫米の生産振興に寄与することでの生産現場への貢献度が高い。									
4 全体計画及び財源 (全体計画において ≡ 計画 — 実績)									
実施内容	到達目標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	(最終年度)年度		
酒造好適米品種の開発	農業生産特性が「秋田酒こまち」並に優れ、「山田錦」タイプの酒質を生み出す系統を1系統以上育成								
酒造用多収穫米品種の開発	収量が「あきたこまち」に比べ15~20%多く、酒造適性(玄米千粒重、心白型比率、乳酸可溶性タンパク質等)に優れた系統を1系統育成								
								合計	
計画予算額(千円)		2,703	2,703	2,703	2,703	2,703		13,515	
当初予算額(千円)		2,706	1,403	1,192	953			6,254	
財源内訳	一般財源	2,706	1,403	1,192	953			6,254	
	国 費								
	そ の 他								

<p>観点</p> <p>1 ニーズの状況変化</p>	<p>● A ○ B ○ C ○ D</p> <p>近年、清酒の消費量は減少しており、製造数量から推定する市場規模は1970年代をピークに縮小を続け、2000年代には半減している。清酒全体の消費量は減少を続けるが、吟醸酒及び純米酒等特定名称酒の消費量は堅調に増加しており、2015年度の県産清酒出荷数量の前年比は吟醸酒116%、純米酒104%となっている。また、県産日本酒の輸出量が10年前の約3倍に増加し、輸出用日本酒に適したAKITA雪国酵母が開発される等輸出拡大が期待されている。そこで、各酒造メーカーは、製造構成に占める吟醸酒及び純米酒比率を高めるため、生産量を拡大し新商品の開発に取り組んでいる。県内の酒米産地及び市場動向に対応した取り組みを始めている県内酒造メーカーからは、栽培特性に優れ、現在使用される「秋田酒こまち」「美山錦」とは、異なる酒質を持つ吟醸酒・純米酒の原料となる酒造好適米品種及び低コストで品質の良い純米酒の原料となる酒造用多収穫米品種の開発が求められている。</p> <p>(委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒米を利用する蔵元のニーズの中身が書面からだけでは判断し難い。 ・県産酒の人気は高まっており、輸出用も含めて様々なニーズに対応できる日本酒づくりが重要となる。 <p>A. ニーズの増大とともに研究目的の意義も高まっている C. ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている</p> <p>B. ニーズに大きな変動はない D. ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんどなくなっている</p>														
<p>効果</p> <p>2</p>	<p>○ A ● B ○ C ○ D</p> <p>新たな酒造好適米品種の育成により、「秋田酒こまち」「美山錦」とは異なる酒質を持った新たな商品が開発される。また、酒造用多収穫米品種の育成により、コストパフォーマンスの高い純米酒の商品が開発される。さらに、秋田県内における酒造原料米の産地育成が期待される。</p> <p>(委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな酒造好適米品種の育成により、新たな酒質を持った商品が開発され、県産酒の需要増加が期待される。 <p>A. 大きな効果が期待される C. 小さな効果が期待される</p> <p>B. 効果が期待される D. 効果はほとんど見込めない</p>														
<p>進捗状況</p> <p>3</p>	<p>○ A ● B ○ C ○ D</p> <p>・早期の品種育成を目指して醸造試験場との連携を密にし、農業試験場で育種・栽培特性評価、醸造試験場で酒造特性評価(原料米分析、清酒製造試験)を行っている。</p> <p>・酒米系統の育成については、酒造特性が優れる秋田酒120号と秋田酒121号、収量性と酒造特性を兼ね備えた秋系827,830,856,857,858を選抜した。この中で、秋田酒120号は、H28年度に30a規模の現地栽培試験と蔵元での清酒製造試験を行い良好な評価を得たことから、今後種苗登録申請をする予定である。また、今年度は秋田酒121号の現地栽培試験と蔵元での清酒製造試験及び秋系827,858の総米1kg規模の小仕込み試験をする予定である。</p> <p>(委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順調に進んでいる。 <p>A. 計画以上に進んでいる C. 計画より遅れている</p> <p>B. 計画通りに進んでいる D. 計画より大幅に遅れている</p>														
<p>目標達成の状況</p> <p>4</p> <p>阻害</p>	<p>● A ○ B ○ C ○ D</p> <p>・大きな阻害要因はみとめられず、計画通りに進めている。</p> <p>A. 目標達成を阻害する要因がほとんどない C. 目標達成を阻害する要因がある</p> <p>B. 目標達成を阻害する要因が少しある D. 目標達成を阻害する要因が大いにある</p>														
<p>総合評価</p>	<p>○ A 当初計画より大きな成果が期待できる</p> <p>● B+ 当初計画より成果が期待できる</p> <p>○ B 当初計画どおりの成果が期待できる</p> <p>○ C さらなる努力が必要である</p> <p>○ D 継続する意義は低い</p>														
<p>評価を踏まえた研究計画等への対応</p> <p>引き続き、醸造試験場や関係機関と連携しできるだけ早い世代から醸造特性を評価しながら酒造好適米、酒造用多収穫米の品種開発を進めていく。育成の進んだ酒造好適米2系統は、既存品種とは異なる酒質を生むことから、種苗登録申請及び品種デビューを視野に入れた大規模醸造試験を実施する。酒造用多収穫米品種については、従来品種に比べてメリット(低コスト、酒質の向上)を出せるような品種開発を進める。</p>															
<p>(参考)</p> <p>過去の評価結果</p>	<table border="1"> <tr> <td>事前</td> <td>中間(27年度)</td> <td>中間(28年度)</td> <td>中間(29年度)</td> <td>中間(年度)</td> <td>中間(年度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	事前	中間(27年度)	中間(28年度)	中間(29年度)	中間(年度)	中間(年度)		B	B	B				
事前	中間(27年度)	中間(28年度)	中間(29年度)	中間(年度)	中間(年度)										
B	B	B													